



みよし

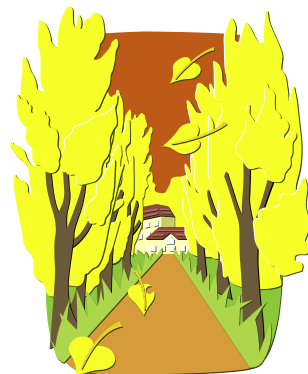
令和元年11月26日

文責 羽田 静香

山々を錦繡に彩っていた美しい紅葉も、間もなく終わりを迎えようとしています。

記念すべき令和元年も残すところあと1ヵ月ほどとなり、月日の経つ早さを感じずにはられません。

学校も、いよいよ長い2学期の締めくくりの時期を迎えています。



さて、本校では、今月11月にも様々な教育活動を実施しています。

6年生は、小学校生活6年間の集大成となる「修学旅行」を実施し、4・5年生は、6年生から児童会を引き継ぐための「児童会選挙」に取り組んでいます。(11月29日はいよいよ投票日になります。)

また、3年生は、地域のスーパーマーケットの見学に出掛け、2年生は、校区の町探検に出掛けて、地域の様子を詳しく教えていただきました。2・3年生ともに、訪問先では多くの皆様に親切にいただき、楽しく学ぶことができました。ご協力頂きました関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

そして1年生は、12月に実施する来年度の新入生との「なかよし会」に向けての準備に入り、張り切って取り組んでいます。

更に、今月は児童会活動も積極的に実施しました。6年生のリーダーシップのもと「図書集会」「保健集会」「福祉講話」「花いっぱい運動」「なかよしタイム」などの様々な活動を実施し、その活動を通して、より良い学校生活、仲間とのふれあい等を考える機会も得ました。

これらの活動の成果を自信にし、児童たちが更なる成長を遂げていくよう、指導に努めて参ります。

~~~~~ 学校生活の様子より ~~~~~

福祉講話

11月13日(水)に、河口智賢さん(耕雲院副住職)を講師にお迎えし、5・6年生が「ともに生きる」というテーマのお話を聞きました。

お話では「命」というものに触れ、命は一度きりのもの、リセットはできないものである。それゆえ命の尊さに向きあい、命を大切にしてほしいと話されました。また命と違い、人生は何度でもやり直せる。失敗から学び成長することで成功(自信)につながる。失敗しても必ず支えてくれる人がいる、というお話をしてくださいました。

更に、生きる上で大切な「食」に関するお話も、丁寧にしてくださいました。

お話を聞いた児童は、「親に与えてもらった命に感謝して大切に生きていこうと思った。」「食べ物大切さを改めて感じた。」と感想を語ってくれました。



初期消火訓練・煙体験

11月25日(月)に第3回の避難訓練を実施しました。

今回は、特別教室での授業中に地震が発生し、その後、火災が発生したという想定での避難訓練でした。自分の教室ではないこと・火災も発生している状況下では、何に気をつけ、どこから避難したらよいかを判断する必要があります。そのことを学ぶ訓練でした。



避難後には、都留消防署の消防隊員の方のご協力を得て、初期消火訓練として消火器を使用した消火方法を学び、更に「煙体験ハウス」を



使用した、煙が充満した場所からの避難方法も、体験学習させていただきました。

新たな授業づくりに取り組んでいます！

主体的・対話的で深い学び・ICT活用 を意識した授業

来年度（令和2年度）より、小学校では「新学習指導要領」が全面実施となります。（※中学校は令和3年度より全面実施）

今回の改定では、新たな時代を「生きる力」の育成を目指し、そのために、それぞれの学校においては、社会との連携・共同によって学校教育目標の実現を目指す「**社会に関かれた教育課程**」の編成が求められ、更に下に示したような新たな指導内容や改善すべきことが明示されて、学校教育における新たな取組が求められています。



【4年生の電子黒板を使用した授業風景】

本校においても、これらを意識し、校内研究会を中心に、新たな指導方法の研究・改善を進めています。また、本年2学期から導入された「電子黒板」等のICT機器も積極的に活用し、可視化を意識した分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。

- *カリキュラム・マネジメント（質の向上を図るための組織的・計画的な教育課程の編成）
- *教育の重点を「何を教えるか」から、「何ができるようになるか」に
- *育成をめざす資質・能力（コンピテンシー）を明確化 ⇒3つの柱に整理
 - ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力・人間力等
- *主体的・対話的で深い学び（**アクティブ・ラーニング**）の視点からの学習指導方法、学習評価の充実と改善
- *道徳教育（※「特別な教科道徳」として、**小**H30・**中**R1から既に実施）
- *小学校における英語教育の拡充強化（R1都留市は先行実施）、中・高等学校における高度化
- *プログラミング教育の充実
- *特別支援教育の充実

PTA教育講演会 開催

11月21日（木）の夜、PTA教養部会の主催による「教育講演会」が行われました。

今年度は、「NPO法人山梨子ども図書館」「スタジオ・声と表現」お話の会「ピッピの会」に所属の **宮崎さなえ** 様 を講師にお招きし、『子どもと一緒に楽しみましょう ～ゆたかな本の世界～』と題した講演をお聞きしました。



講演は、素晴らしい読書の世界に子どもたちを引き込むために大人ができることについてで、具体的な読み聞かせの実演を交えながら、読書の魅力、そして楽しさを熱く伝えてくださいました。

「活字離れ」が危惧される昨今ですが、宮崎先生は、読書がもたらす力は、子どもたちの生きていく上に、とても大きな良い影響を授けてくれるものであることを話された上で、子どもの時に本を開くことの楽しさを知らないまま育った子どもは、その先もずっと本を開こうとしないで、読書から遠ざかってしまうので、**大人は、子どもたちに「本を開く楽しさ」を伝えて欲しい**と話されました。

本を開く楽しさを知らせるためには、**大人が質の良い本（良い文章・良い挿絵の本）を選び、子どもに読み聞かせをして、本の世界に引き込み、読書の楽しさを感じさせてあげることが大切だ**と話されました。

また、小学生になり子どもが一人読み出来るようになると、とかく読み聞かせをしなくなりますが、「字が読める」＝「本が読める」のではないので、子どもが「もういいよ」と言うまでは、大人は読み聞かせをしてあげて欲しいとも話されました。



90分があっという間に感じるほどの魅力あふれる内容と宮崎先生の素晴らしい語り口に、参加者は心を打たれ、引きつけられて聞き入っていました。

学校でも家庭でも、今まで以上に、子どもたちの読書に関わって、子どものより良い読書生活を支えていきたいと感じました。